

英国のEU離脱決定は正当か無意味か —親EU派の英国人の視点—

英国は長年EUの中心的位置に立つことはありませんでした。そのような中でキャメロン首相は、EU離脱か残留かを問う国民投票を実施しました。その背景や、離脱を選択した有権者の動機には何があったのでしょうか。今後離脱はどのように行われ、イギリス、EUにどのような政治的、経済的影響を及ぼすのでしょうか。そしてこの国民投票の教訓とは？

欧州委員会に35年間勤務したイギリス出身の講師に、英国のEU離脱について解説していただきます。

■講師：**フランシス・ローリンソン** 氏
(関西学院大学経済学部客員教授)

■日時：**10月29日**(土)13:00~15:00

■場所：関西学院大学図書館ホール

■参加費：無料
(一般参加可、申し込み手続き不要)

<講師プロフィール>

英国プレストン生まれ

1966年 英国、マンチェスター大学ドイツ言語学卒業

1970年 英国、北ウェイルス(バンゴール)大学ドイツ言語学講師

1973年 ドイツ、マールブルグ大学言語学博士

1973年~2009年 EU欧州委員会に勤務 その間1988年 英国、オープン大学経済学卒業

2011年~関西学院大学産業研究所教授、現在は経済学部客員教授

現在の研究分野はEUの競争政策、地域開発政策、産業政策、通貨政策など

<主著>

1991年 Ritter/Braun/Rawlinson, EEC Competition Law

1994年 Lenz (編) Kommentar zum EG-Vertrag — Staatliche Beihilfen (ドイツ語)

